

事業報告書

第Ⅻ期

自 平成7年4月 1日

至 令和8年3月 31日

一般財団法人三光丸クスリ資料館

I. 一般財団法人設立後の状況

平成 26 年 12 月 8 日に一般財団法人三光丸クスリ資料館の設立登記を行って以来、今回で 12 期目の事業報告となる。

今期の事業方針は、公益財団法人化の可能性を考慮しながら、①「見学者数増加、見学者の年齢層拡大」および②「出張展示、講演など積極的な館外活動の実施と、広報活動の充実」③「資料館活動による収入源確保」④「配置家庭薬、漢方薬、和漢薬および中世大和の国人越智氏に関する調査研究・資料蒐集および情報公開」⑤「文化支援・助成事業として社員研修棟・直心庵の活用」⑥「新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策」に努めるというものであった。

以下、本年度の事業実績を列挙する。

II. 令和 6 年度事業実績（令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）

1. 資料の蒐集、保管、公開

(1) 施設の開館状況

開館日数：270 日（昨年度 268 日）

入館者数：1,333 人（昨年度比-8 人、一昨年度比-88 人）

入館者のうち、10 人以上の団体見学者数は 731 人であり、全体の約 55%を占めている（昨年度は 42%）。団体の多くは学校関係（小学校 44 人、中学 43 人、高校 25 人、教頭会など教員の研修 30 人）および各種福祉団体（民生委員、児童養護施設）、医薬関連業界団体（薬剤師会）、高齢者のサークル、ハイキング、ウォーキングなど。海外からの見学者は 113 人（中国）と昨年（43 人）より大幅に増加した。

令和元年 12 月から始まった新型コロナウイルスによる感染拡大の影響については、5 類引き下げ後、個人・団体とも来館者数は回復傾向にある。

(2) 常設展示

まほろば館

※ まほろば館の展示物に「鹿の角」を追加した。また、昨年引き続き、英語、中国語（簡体字、繁体字）、ハングル文字による解説文を追加した。

※ 令和 4 年 5 月、映像コーナー「やうじゃう座」のナレーションに、子供向けバージョンを追加した。映像は今までと同じだが、女性ナレーターによる優しい口調で表現も子供にわかりやすいようになった。また、工場見学ができない場合を想定して原料加工、製剤に関する動画も追加した。

こころの館

※ 庭に面した一角に椅子とテーブルを増やし、各種資料を置いて休憩・資料閲覧コーナーを設けている。さらに、「クスリ作り体験コーナー」には、感染症対策として使い捨てのゴム手袋を用意している。

※ 小学校の社会見学、遠足は相変わらず多く、見学後に先生が学級新聞など生徒たちの感想文を持参してくださるケースも多い。それらを一定期間館内に掲示している。

※ 御所市南郷の飯室様から寄贈された資料を新たに展示している。(下記参照)

(3) 企画展示

企画展示室

企画展示コーナーでは、平成 31 年 4 月以降、「大和売薬の源流を辿る」と題し、中世から近世に至る大和国の歴史を俯瞰しながら、越智氏、米田氏および興福寺と大和売薬のかかわりについて紹介している。

また、令和 6 年 11 月、御所市南郷の飯室様（旧姓中坊様）より携帯用棹秤、真鍮製合匙（ごうひ）、明治～大正時代の薬、贈答用の丸谷焼猪口、配置用大袋を寄贈いただき、「こころの館」と企画展示室に分散・展示している。

2. 普及啓発事業

三光丸クスリ資料館では、一般財団法人移行前から、地域社会への貢献を目的とした事業を積極的に展開してきた。このような活動は、江戸時代以降、長年にわたり大和の配置売薬業界を牽引してきた「三光丸」に課せられた重要な役割と考えるものである。主な活動は以下のとおり。

(1) 主な施設内活動

- ① 6月2日（月）ウーゴ・ミズコ先生（学習院女子大学）来社、歴史的建造物研究の件で資料館を見学。大正～昭和初期の旧社屋の青焼図面をお貸しした。2026年1月、先生からメールがあり、添付資料として書籍内の三光丸クスリ資料館に関する原稿データを送っていただいた。
- ② 7月12日（土）キハダワークショップ開催、本年度から主催は株式会社三光丸主催となった。協力：農業法人ポニーの里ファーム、山添村神野之木山木工館、奈良県薬事研究センター（西原氏）イベント内容は「キハダ皮むき+色鉛筆づくり+西原氏トークショー+資料館見学ツアー」一般参加者 29 人。なお、イベントに際し、三光丸のロゴを入れた T シャツを製作。以後会社関連イベントに使用することとなった。
- ③ 8月30日（土）中国から薬局チェーン店（恒昌医薬集団）の方々が来館。
- ④ 10月2日（木）中国人団体来館。代表者の米鴻賓（ミイ・ホンビン）氏は前にも来ていただいた。北京の「十翼書院」という教育機関の主催者。書籍を寄贈いただいた。『邵雍（ショウヨウ）』（北宋の哲学者）の業績をまとめたもの。
- ⑤ 10月23日（木）中国山東省から団体 28 人来館。毎年、代表者が中心となって日本の長寿企業を訪問しているとのこと。
- ⑥ 11月13日（木）～16日（日）資料館付属施設・直心庵にて陶芸家東川和正氏の作品展「玄彩展」を開催。平成 21 年の第 1 回開催以来、17 回目となった。
- ⑦ 11月15日（土）～16日（日）「第 23 回関西文化の日」開催に協賛し、資料館を開館。昨年に引き続き高取町の観光イベントに合わせて 16 日の夜、ライトアップを行った。両日の来館者 68 人（ライトアップの来館者 55 人含む）。
- ⑧ 令和 8 年 2 月 6 日（金）井上天極堂「葛三昧ツアー」に協力、資料館見学ツアー開催

- ⑨ 2月11日(水 建国記念の日)なら100年会館にて「国内観光活性化フォーラム」に出展した。(参加者は旅行業界の関係者)当館ブースの訪問者(資料提供)は推定50人。
- ※ 8月の夏休み期間中、土曜・日曜日を開館した。期間中の来館者は15人(中学生以下2人)であった。

(2) 主な施設外活動

- ① 4月23日(水) 興福寺主催「唐味噌(発酵食品)研究会」油長酒造見学会に参加(興福寺・辻執事長、山本長兵衛氏、奈良先端科学技術大学院大学准教授・渡辺大輔先生、日本発酵文化協会・阿部咲季香氏、浅見) 興福寺『多聞院日記』に記載された唐味噌を再現し商品化するプロジェクトで、歴史的資料の収集を依頼され、調査結果を渡した。
- ② 5月6日(火) 越智氏奉賛会総会(事務局:光雲寺)において越智氏に関する講演を行う。
- ③ 7月31日(木) 大和高田市産業会館にて「ならの教育応援隊メニューフェア」開催、ブース出展
- ④ 8月31日(日) 木津川市中央交流会館いずみホールにて「奈良と薬」と題して講演(浅見; 来場者約180人)
- ⑤ 9月21日(日) 御所市ウォークラリーに参加、会場内においてブース出展
- ⑥ 9月22日(月) 高取国際高校において中世大和国の歴史に関する授業を担当(浅見)、越智氏に関する講義を行った。
- ⑦ 12月6日(土) イオンモール橿原において「奈良ほどける漢方市(奈良のトビラ:奈良県主催)」に参加、ワークショップ「キハダペンダント作り」を開催。
- ⑧ 令和8年1月25日(日) イオンモール大和郡山において「NaRa くすりと健康」イベント(薬務課主催)に参加、昔の製丸機を使った丸薬づくり体験・三光丸袋詰め体験を実施。
- ⑨ 2月13日(金) 御所市デイサービス「ときの森」で奈良の薬に関する講演を行った。参加者40人
- ⑩ 3月21日(土)～22日(日) 奈良市ミナラにてみらいのたからばこ主催「子供お仕事体験」イベントに参加。「昔の製丸体験」「行商人に変身・写真撮影」「三光丸の丸薬袋詰め体験」2日間の体験者120人以上

(3) 広報活動

- ① 令和3年2月から、大和高田市を中心とした中和地区をエリアとするコミュニティFMラジオ局が開局した。三光丸クスリ資料館および(株)三光丸もこれに協賛しており、定期的に同局のパーソナリティーが資料館を訪問・取材を行っている。
- ② 奈良県では、「ならの教育応援隊」と称し、学校・園の教育活動を充実させるため、県内の団体・企業に向けて見学会の実施や資料提供を依頼している。当館でもこれに賛同し、学校の見学、出前授業に対応しているが、昨年より新型コロナ感染拡大に対応する形で

「zoom などによる動画の配信」を提供する旨、県に申請・受理されている。これによって、見学を実施できない学校・園にも奈良県の配置薬、漢方薬に関する情報の提供が可能となった。

- ③ 奈良県産業政策課による新たな観光商品の開発に協力。奈良中部エリアのモデルコースとして「くすりゆかりの地を巡るコース」（桜井市・狭井神社～宇陀市松山地区～三光丸クスリ資料館）を設定、観光タクシーを利用した見学場所に指定されている。
- ④ 会社 SNS 班の協力を得て、資料館の紹介動画を撮影、定期的に情報発信を行っている。
- ⑤ 令和 7 年 6 月以降、奈良県外国人観光客交流館における県内施設の紹介パンフレットに資料館の情報を掲載していただくことになった。（その後、同施設は令和 8 年 3 月をもって閉鎖）
- ⑥ 令和 7 年 11 月、大阪日日新聞の取材を受け、「冬休みわくわく特別号お出かけスポット（保存版）」に資料館の紹介記事を掲載していただく。
- ⑦ 令和 7 年 10 月～「奈良オープンファクトリーガイド」（奈良県産業部・産業創造課）に工場見学・ものづくり体験ができる県内 67 施設のひとつとして紹介されている。

3. 学術調査研究事業

継続事業として「大和売薬」「大和の薬」および三光丸の米田家、越智氏の歴史に関する調査研究を行なった。

大和の地では、古くから東大寺、唐招提寺、西大寺、興福寺などの有力寺院において庶民救済を目的とする“薬づくり”が盛んに行われてきた経緯があり、中でも藤原氏の氏寺として栄えた南都興福寺では、多聞院と呼ばれた子院しいんにおいて、医薬の知識を備えた僧侶たちがさまざまな薬を処方していたことがわかっている。

越智氏、米田氏は大和国における他の国人領主と同様、興福寺とのつながりが深く、家伝薬の製法も同寺から伝えられた可能性がある。

したがって、中世大和国における越智氏の動向を調べるのがすなわち、「大和の薬」の歴史研究につながるため、当館ではかねてよりさまざまな文献史料をもとに、越智氏に関する調査研究を継続的に行っている。以下、年度内の調査研究活動を挙げる。

- (1) 明治以降、昭和初期に至る得意帳の内容を精査し、当該期の得意先回りの実態を調査した。得意帳からは、取扱商品の種類と価格、代金の回収状況、回商頻度などのほか、得意先の分布状況、家族構成、健康状態などの情報も得ることができる。また、得意帳にはしばしば、次回担当者への申し送り事項や顧客とのやりとり、日々の雑感などが生々しく記されており、当時の世相や人情なども垣間見ることができる。このような資料は、日本人の生活史をたどるうえでたいへん貴重なものであり、研究成果を広く公開することが私たちの使命と考えている。
- (2) 『大乗院だいじょういん社雑事記』『言継卿ときつぐきょう記』など、中世の第一級史料をもとに、越智氏、米田氏に関する調査研究を継続的に行った。
- (3) 明治から昭和初期までに製造販売されたさまざまな配置薬に関して調査し、資料の写

真撮影および画像データの蓄積作業を行なった。

- (4) 高取町の黄檗宗寺院・光雲寺では、平成31年から「越智氏奉賛会」を結成し、講演会やフィールドワーク、他の団体との情報交換等により越智氏に関する情報を収集している。結成以来、当館も積極的にその活動に参加し、中世大和国・越智氏に関する調査研究を共同で行っている。令和6年4月7日（日）、高取町のリベルテホールに天理大学の天野忠幸先生をお招きして「中世歴史講演会」を開催。主催は大阪・奈良歴史街道ウォーク実行委員会で、越智氏奉賛会と高取町が協力し、越智氏の全盛期を築いた越智家栄の事績に関するお話をうかがった（来場者101名）。
- (5) 令和4年7月より資料館長が奈良県立大学・ユーラシア研究センターの客員研究員を委嘱され、同センターにて2か月に1回開催される研究発表会に出席している。今年度は、学術叢書『大和のリーダーたち』シリーズ3冊目を刊行、資料館長はロート製菓の創業者・山田安民（やすたみ/あんみん）氏に関する文章を担当した。なお、同研究会は令和6年度で一定の目的を達したため終了・解散となった。
- (6) 令和7年春から興福寺主催の「唐味噌・発酵食品プロジェクト」に歴史部門担当者として参加を依頼された。
- (7) 令和7年10月、京阪奈情報教育出版・住田氏の発案で越智氏に関する本を執筆することとなり、資料収集・執筆を開始。執筆は浅見が担当するが、越智氏の全盛期を築いた越智家栄に関する箇所の執筆を天理大学の天野忠幸先生に依頼、ご快諾いただいた。令和8年2月末に原稿を入稿、4月末から校正を開始する予定。本書タイトルは『越智氏の正体-大和の乱世を駆け抜けた武士（もののふ）たち-』の予定。

4. 資料館運営

理事会および評議員会を、下記のとおり開催した。

- ① 令和7年5月 定例理事会および定例評議員会を開催。議案は「事業報告」「決算報告」「監査報告」
- ② 令和7年8月 定例理事会は決議事項がなかったため、「資料館の活動報告」のみを書面にて理事・監事へ送付した。
- ③ 令和7年11月 定例理事会を開催。議案は「中間決算報告」「資料館の活動報告」
- ④ 令和8年2月 インフルエンザ等感染症の流行を考慮し、定例理事会および定例評議員会は書面による決議とした。議案は「令和8年度予算案」「令和8年度事業計画」「資料館の活動報告」

5. 課題・その他

- ※ 一般財団法人の設立以来、検討事項となっていた「入館料の設定」については、前期に引き続き実施保留となったが、令和6年3月以降、来館者にたいして適正と思われる入館料のアンケート調査を実施している。見学有料化による収入源確保は、将来にわたり安定的な活動をする上で必要なことであり、実現にむけて努力していきたい。

- ※ 平成 24 年度以降、奈良県では「漢方メッカ推進プロジェクト」と題し、薬用作物（生薬）の生産拡大と、関連する商品・サービスの創出まで一貫した体制の構築に力を注いでいる。これにともない、「大和のくすり」に関する貴重な資料を多数所蔵する当館の存在意義も大きなものとなっている。今後は、資料の調査研究成果を公開するなど、情報発信源としての機能を高めていきたい。
- ※ 新型コロナウイルスの感染状況については、現在やや落ち着きを見せ始めており、感染症法上の位置づけも 5 類に引き下げられている。しかし、人が集中する場所においては個人の判断でマスクなどの予防対策を講じる場面も多く、このような状況はまだ続くと思われる。当館では、生薬見本コーナーや薬作り体験コーナーなど、五感をフルに活用する体験型学習を目的とした展示が多く、展示物や器材の消毒など、引き続き感染防止対策をおこなっている。今後も、当館の特徴を生かしつつ、安心して見学していただけるよう、感染対策に工夫をこらしていきたい。
- ※ ㈱三光丸は、2021 年から会社裏山の針葉樹を一部伐採し、広葉樹を植栽することで昔の景観をとりもどす「里山計画」に着手、「混交林誘導整備事業」という形で県及び御所市の補助を得ながら進めてきた。事業内容はスギ、ヒノキなど針葉樹を間伐してクヌギやカシ、クリ、キハダなど広葉樹を植えて水害に強い山を作るというものだが、将来的には、資料館見学者が里山を散策できるように遊歩道の設置も計画している。当館としても積極的に応援していきたい。
- ※ 『越智氏の正体-戦国の大和を駆け抜けた武士（もののふ）たち-』の刊行は、当館の主要業務である「中世大和史研究」の集大成として位置づけられるものであり、書籍発刊後は講演活動などを通じて本書の普及活動に力を入れていきたい。

以上